

2024年の大雪は12月7日（土）です。

また、12月7日から次の冬至の12月21日までの15日間ぐらいを指します。

大雪は、さかんに雪が降り、積もる頃とされていますが、雪のピークはもう少し先です。

本格的な冬へと移り変わる時季でもある大雪。その大雪とは、どんな時季でしょうか。

季節の言葉「冬ざれ」は草木が枯れ果てて、もの寂しい冬の様子、あるいは、そのような冬の季節のことです。寒々とした冬の風景が思い浮かぶ言葉です。

「冬ざれや 小鳥のあさる 葦畑(にらばたけ)」 与謝野蕪村

「いかにも荒れ果てて、寂しい冬だな。小鳥たちが葦畑でえさを探しているよ」といった意味です。

冬ざれが好きな人は多くないかもしれませんが、一方で、冬ざれは美しいものを引き立ててくれることもあります。夜空に光り輝く月や星々、枯木立(かれこだち)、夕焼け、そして、楽しい思い出……。

大雪の時期に行われる行事として、お正月に備えて、松や榊などを用意します。

かつては、12月13日に正月の松飾りに使う木を山に切り出しにいったそうです。

「松迎え」といい、松と一緒に、榊(さかき)や裏白(うらじろ)、樺(ゆずりは)なども採ってきました。

【榊】はツバキ科の常緑高木ですが、もともとは神事に用いる常緑樹の総称で、今もこの意味で使われることもあります。照り輝くような艶(つや)のある葉を持つ榊の木。輝きを1年中保ち続ける榊に、先人たちは神の存在を感じたのでしょう。

【裏白】はウラボシ科の常緑のシダで、羽状に分かれた葉の裏側は白っぽい色をしています。

その名のとおり、裏は白です。

【樺】はユズリハ科の常緑高木で、新しい葉が生長してから古い葉が譲るように落ちるため、この名がつけられました。代々相譲るという縁起を祝って、新年の飾り物に使われるようになりました。

「煤払い」や「松迎え」など、お正月の準備を始める時期でもあります。

【針供養】「縫物が上手になりますように」と願いながら折れた針を供養する日です。いつも固いものを刺して使い古し、この日だけは柔らかいものに、と「こんにやく」、「豆腐」に針を刺して近くの神社に納めます。

【事納め】「事」が神様の「事」なのか人の「事」かの違いにより12月8日と2月8日のいわゆる事の八日が事始めであるのか事納めであるのか変わってきます。

人の「事」を意味する場合、農作業の流れを汲むため2月8日が事始め、12月8日は事納めとなります。

【正月事始め】

12月13日に神社やお寺で行われる行事で、新年に向けて準備を始める日とされ**鬼宿日**(きしゆくにち)といい、婚礼以外のことは何をするにも縁起が良いとされています。

この日に**煤払い**(すすはらい)など新年を迎える準備も始めます。

お歳暮を贈る時季、【歳暮】は文字どおり、年の暮れ、年末、歳末のことです。

その歳暮の時期に、1年の感謝を込めて品物を贈ることを「歳暮の礼」や「歳暮祝(せいぼいわい)」などといいました。

これが略されて、単に「歳暮」になり、丁寧な表現として「お歳暮」とも言うようになりました。

お歳暮を贈る時期は、一般的には、12月13日～12月20日ごろがよいとされています。

【師走】12月のことを、師走(しわす)といいます。

その師走の、おだやかに晴れた天気のことを、「師走日和(しわすびより)」といいます。

「日和(ひより)」は、もともと、単に空模様をさす言葉でしたが、次第に、晴れたよい天気や、何かをするのにちょうどよい天候をさすようになり、「〇〇日和」という複合語もたくさん生まれました。